

# エーバーファル 1

Überfall

清水らくは

Rakuba Shimizu

## 自縛

危うく世界の底に  
手が届いてしまいそうだった  
私は自ら鎖を編んで  
体を封じ込めた  
今日も世界は私から逃れて  
安心の内側にある  
かつて世界は何回も壊れ

その度に永遠を消費した  
私はじっと見守った  
今度の世界はどうなるのか  
私に触れられないところまで  
深くなることができるのか  
無理だった  
いつだって手は届く  
私も我慢しきれない  
だから縛る  
心を縛れないので  
体を縛ってしまう

今日も世界の底から  
太陽が沸き上がる  
私に触れられないので  
まだ永遠は続く  
不完全な微睡は  
鎖が錆びるまで  
ゆらりゆらりと繰り返すのだ

## 新潟の日

水族館までの道のりはくねくねと海の香りを出し惜しみする

二色の快速列車が交差する駅前に家族三人だけの日

まだ父も息子だったのだ 「清水家の墓」というランドマークで

母の焼香がぎこちないきつと私はもつとぎこちない

親族は誰も墓を掃除せず私の部屋にそっくりの場所



君は僕より  
視野が狭いね  
君の心は  
視野が広いかい  
そもそもこの声が  
聞こえているかい  
ふやけた顔をしているなあ  
早く追いついてきなよ

ユーバーファル 1

2017年8月1日発行

発行者 清水らくは

連絡 [rakuha@hotmail.com](mailto:rakuha@hotmail.com)

使用フォント

MS ゴシック

MS P ゴシック

おつとめフォント

Segoe Print

Mistral

うずらフォント